テーマ２　県立高校の入試制度（３件）

２－１　【羽後町　40 代】

11 月頃に１期目として特色選抜の要素を加味した学力試験による入試を実施しつつ、３月上旬に２期目として従来の学力試験を実施してはいかがか。

大学試験のように年内で一定数の合格者がでる傾向が高校試験でもニーズとなっていると思われる。

２－２　【秋田市　30 代】

前期選抜試験の廃止により、スポーツ有望な中学生の県外流出が課題とのことだが、強豪校の環境整備は他県の強豪校に比べたら実績不足で難しいのでは。そもそも「スポーツ立県あきた」の必要性や認知度に疑問があり、高校での選抜コースより、義務教育（小中学校）でスポーツの楽しさを教える方が効果的。体育嫌いの原因（競技強制、厳しい指導）がネットなどで話題にあり、学生時代のネガティブな経験がスポーツ嫌いに繋がるため、選択制の体育（ルールを学ぶ座学や戦術を考えるグループとそれに従って競技するグループにわかれて、運動が苦手な人でも参加しやすいというか失敗を晒さない工夫）や楽しみ重視の授業を導入。秋田のプロチームなどを活用し、小中学生向けのスポーツ教室や観戦イベントを開催し、スポーツへの憧れを醸成。既存の学校施設や教員を活用し、低コストで実現。県教育委員会は教員研修やモデル校を設定し、指導の質を向上。義務教育でのスポーツ文化醸成を通じて、県外流出を間接的に抑制し、県全体のスポーツ参加を底上げ。

２－３　【大館市　30 代】

教員をしている者です。入試制度の問題もあるかもしれませんが、中学・高校の部活動の在り方と、教員の働き方が根底にある深刻な問題だととらえています。

現場では、周知のとおり、日々の業務のほか部活動が教員の大きな負担となっています。教員不足の今、二つの部活動を掛け持ちしている教員や、家族との時間を取れずストレスが重くのしかかる教員、休日が月に２～３日は当然、労働環境の

悪さは深刻です。もちろん、部活動顧問を夢見て教員になった先生もいますが、過重労働のために部活動にじっくり時間をかけたり、技術を伸ばすために研鑽を積める教員は限られています。

そんな中、他県では、すでに部活動の地域移行化が進んだり、部活動の在り方が変わったりと、専門的に競技に携わる存在がいることで、生徒たちがより高みを目指し励んでいるという例もあります。今回の問題も、中学・高校ともに、部活動のあり方に変化の見られない秋田県では、当然の結果のように思います。部活動の在り方を変えないままにスポーツ立県を唱えるのは、ますます教員への負担がかかり、教員志望者の減少や、子育て世代の教員の退職を促すだけだと考えています。

学校教育の在り方に言及するのは難しい問題なのかもしれませんが、一市民として意見を述べさせてください。全県において、部活動の地域移行化、または部活動専門教員を配置することを強く望みます。大きな決断と行動力で教員の労働環境を整えることが、ひいては中学生の他県流出を防ぐカギとなるのではないでしょうか。秋田の生徒と教員のために、どうか声が届くことを願います。